銀河戦国群雄伝 24

ラディ

真鍋譲治

Dengeki Comics EX

DE-5-24

発行
メディアワークス

ISBN4-8402-1690-8

C0979 ¥930E

9784840216906

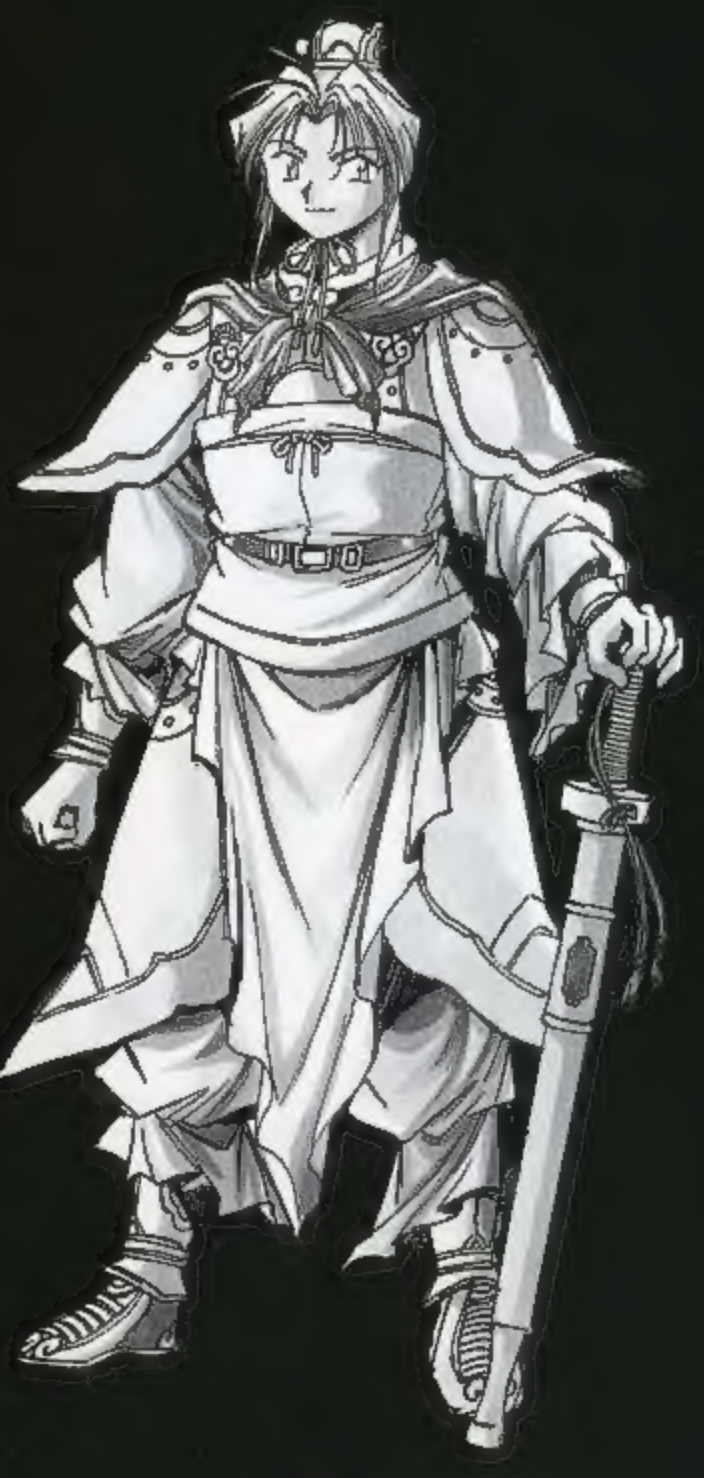
1920979009301

発行●メディアワークス

定価：本体930円 ※消費税が別に加算されます

RAI

BY JOJI MANABE



24

銀河戦国群雄伝

ライ

●ARTIST
JOJI MANABE

●EDITOR
KATSUO ANDO

●BOOK DESIGN
TETSUYA ASAKURA

●SPECIAL THANKS TO
MASAHIKO YAMASHITA
TAKAAKI TOMITA
HIRONORI NAGAI

戦国の銀河を生き抜く群雄たち

【竜我雷】りゅうがらい

本編の主人公。天涯孤独、出自不明の少年であったが、その頃激しさを増していた銀河統一戦に一方の雄であった五丈国国主、比企弾正の許でその兵歴の第一歩を示す。その度胸と悪運の強さを時の上官、女将軍狼刃に買われて一兵卒より突如師団長に抜擢、五丈軍先鋒として南天に雪崩れ込む。南天軍の前線を突破するや、大暴れして要衝、座王都に一番乗りを果たし、その勇名は敵味方に響き渡る。その後も、数々の戦功により、昇進に昇進を重ね、弾正の死後、骸羅のクーデター時には、南京楼の太守に収まっていた。初めて地盤を得た雷は、その地で希代の天才、師真を軍師として迎え、また、皇室の娘、紫紋を妻に娶ると、すぐさま中央に反旗を翻し、挙兵する。圧倒的に不利な状況の中、死闘を展開、ついに金州海にて恩師、狼刃を涙をふるって倒した。その余勢を駆って、偽帝、骸羅をも打ち倒し、全五丈を平らげる。その後、玄偉、西羌王ら反竜我派の反乱を鎮圧する中、五丈王に即位し、尊号を竜王と称する。西羌と和を結び、着々と国内体制を固める雷に対し智の正宗とそれに呼応するかの如く、北伐を決意した、南天王、羅候率いる南天軍がほぼ同時に大挙して五丈領内に侵入、国力が整わない五丈は最大の危機を迎える。雷は軍師、師真の戦力集中による各個撃破の策を取り、まずは開彭沖にて正宗と激突、最後には単艦同士での一騎打ちにより、ついに宿敵正宗を倒した。雷は返す刀で、南天軍主力を六紋海におびき寄せ、天文を利用した戦法で壊滅的な打撃を与える。歴史の分岐点となったこの戦いで雷の覇者への道が確定した。また、家庭的にも、第二夫人である弾正の娘、麗羅との間に跡継ぎ、梵天丸(後の二代皇帝文帝)を授かり、順風満帆の中、ついに弾正公を始めとする歴代の北天の覇者が誰も成し得なかった南征に挑む。迎え撃つ羅候率いる南天軍を北京沖で激戦の末、撃破。その勢いを駆って、南天首都、大王理をも占領した。だがその勝利の美酒を味わう間もなく、寝返った西羌軍に、斉王都を落とされるという事態が発生、最愛の妻、紫紋、そして宿将孟閣を失うことになる。

【紫紋】しもん

敗将、阿曹主禅と皇女を両親に持つ娘。皇室の血を引くことで様々な辛い運命に翻弄される悲劇の娘である。父親を雷に殺された後、五丈に身柄を引き渡され、恩賞として仇でもある雷の許に預けられた。だが、雷とはそれを乗り越えて深い愛情を寄せ合うことになる。正妻となってからは、戦場に赴く雷を陰日向と支えていく。雷に対して政治的な口出しをすることはないが、その優しさ故、女を政治の駆け引きに使うやり方には、思わず雷に苦言を呈した。

【麗羅】れいら

雷の主君であった比紀弾正の娘。勝ち気な性格で、雷との絡みで紫紋とはよく対立し、反乱の罪を被せて紫紋を殺そうとしたこともあった。弾正の死後、国政を乗っ取るが骸羅に国を追われ、雷の許に転がり込み、第二婦人として、雷の第一子である梵天丸をもうける。一時険悪であった紫紋とも和解し、子育てに励んでいる。

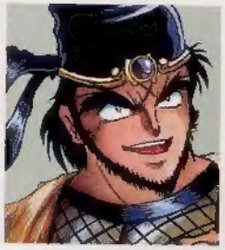
【雲海入道】うんかいにゅうどう

【大覚屋師真】だいがくやししん

南京楼の豪商、大覚屋の放蕩息子。筆段は酒色に溺れて甚だ評判が悪い。だがその知謀たるや史書、経書から兵法、天文、医学に精通した天才的な戦略家である。並みいる諸侯からの度重なる招きをすべて固辞し、時を待つが紫紋を横恋慕したことによる縁で雷に出会い、以来その才覚を余すことなく発揮、雷の覇業の最大の立役者である。六紋海の戦いでは雄大な戦略を立て、敵軍師、姜子昌との決戦に挑み、これを撃ち破る。雷とは君臣の間柄を越えた仲である。

雷の兵卒時代からの戦友。かつては高僧にも仕える身分であったが、大酒飲みが仇で宗門を追われた破戒坊主。だが、雷にとっては最も頼りになる豪傑である。終始、雷とは戦場を共にし、また、雷の密命を帯び、暴政下の武王都より麗羅を救出、無事雷の許に送り届けた。六紋海の決戦においては一軍を率いて奮戦し、雷を守る。

【項武】こうぶ



【三楽斎】さんらくさい

雷の旗揚げ時からの宿将であった項焉の息子で八十斤はあろう大斧を片手で軽く振り回す豪傑である。その武勇を買われ常に先鋒を任される。六紋海では、皇海に散った項焉の仇を討つべく奮戦する。五丈の尚書令。師真に次ぐ、実質、五丈家臣団ナンバー2である。極めて有能な能吏派軍人であり、弁舌の才を持って雷を補佐し、外交、内政面においてその優れた才能を、遺憾無く発揮する。

【孟起】もうき

大将軍、孟閣の息子で五丈軍第二世代を代表する青年武将。六紋海での戦いでは、遊軍を率い活躍、斉王都の危機においては自ら志願し雷に帯同する。

【林則嘉】りんそくか

五丈軍の謀臣。若い頃は風采も上がらず誰にも相手にされなかったが、南京楼城内に出入りしている間に師真に

見出され、雷輔翼の人物として師真と双璧をなすようになる。天才肌の師真に対して、地味ながら、その誠実さをもって数々の献策をし、雷の覇業を助ける。特に金州海の戦いにおいて、焦る雷を勇気を持って諫めたことは、その後の雷の成長を考えると特筆に値する。

【装伯】そうはく

造船総監装民の甥。五丈軍の技術者の要の一人であり、装民の作った巨砲を自走砲艦として生まれ変わらせた。

【姚文】ようぶん

五丈軍の勇将。鐘士元らと共に雷の股肱の臣である。師真とは合わなかったが、その命には良く服し、戦功を重ね、雷の覇業の一翼をなす。よく書をし、武勇一辺倒ではない男でもある。

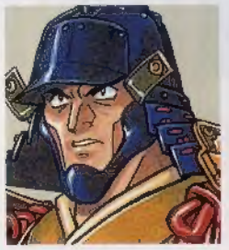
【如海】じょかい

【姜子昌】きょうしょう

南天きっての名将。羅候の竹馬の友でもある。若くして、当時の練国の大都督に就き、羅候を補佐し、練国を南天一の強国に押し上げる。又、ライバルでもある正宗による銀河統一を阻止するべく画策、正宗を失脚に追い込む。羅候の北伐においては南天軍三千万の総大将に就任。五丈軍をもう一歩の所まで追い込むには隙を突き、南帝闕を占拠、虎丸を智王に立て正宗を失脚させる。南蛮王の死去後、その王位も継ぎ、練、南蛮二国の盟主となり南天に揺るぎない地位を築く。その後、正宗が復権すると見るや、素早く智領土の併合を謀り、正宗と智王を遥か領土外に追いやる。次いで、天下統一を目指し、大軍団で五丈に侵攻するが六紋海で完敗する。五丈軍の南征に対しては姜子昌、龍絡らと意見が合わず、両名を罷免、自ら討って出るも大敗を喫する。

【呂朱】りょしゅ

東河の七賢人と呼ばれた処士の一人。田舎において晴耕雨読の生活を送っていたが、五丈を平定した雷により、三顧の礼を持って迎えられ、幕下に入る。



【鐘士元】しょうしげん

五丈軍の中堅武将。雷の挙兵に応じ、骸羅派の大守を殺して雷の許に馳せ参じた功により、誉威将軍に進んだ。

【邑峻】ゆうしゅん

五丈軍の勇将。雷の師団長以来の宿将で、その勇猛果敢さで、常に先鋒を受け持ったが、師真のような新参者とは反りが合わず、対立した。だが次第にその知謀を認め、その指揮下に入り活躍する。

【蹄庖】ていほう

南蛮王琥瑛罵洲の一人娘。羅候とは許嫁の仲である。南蛮王国との連携を強めるために、羅候の許に輿入れ、百人もの女兵士を従えるなど相当なじゃじゃ馬ではあるが、意外にも花嫁修業には熱心だった。とにかく羅候が好きで好きでたまらないという感じで、それ故に城内を餃子だらけにしてしまうなどいろんな騒動を起こす。羅候の本格的な北伐にも同行し、身重な身体でありながら、大鉈を振り回しての大奮闘した。

【鐘才】しょうさい

郡役所の下級官吏から鎮南将軍にまで登り詰めた苦労人。六紋海の戦いでは、後方遮断の任を任される。

【大覚屋英真】だいがくやえいしん

師真の弟で豪商大覚屋を擁しての南京楼産業界の若きリーダーである。その立場から雷の良き経済アドバイザーとして活躍、骸羅裴政後の五丈経済再建に大きく貢献するが、長引く戦乱に民が疲弊しきっていることを悟り、早期講和の道を模索し始める。

【羅候】らこう

南天王。父、羅鶴の死後、兵権を引き継ぐ。当初は南天の大国、智に従属していたが徐々にその勢力を広げ、南蛮国王女、邑峻を娶り、その地盤を強固なものにする。正宗の北伐時が、師真の「空城の計」、「水攻め」により敗退する。その後の北京沖会戦には、地位を剥奪され不参加。

【李張】りちょう

弾正の元軍師。その弟子には華玉、骸延など知謀の士が多い。銀河の覇者の出現を予見している。

【神楽】かぐら

南天国の女武将。白象戦車隊を駆り八十斤の鎖鉄槌を振り回す猛者である。姜子昌にほのかな恋心を抱くが、六紋海の戦いで、善戦空しく、一度は破った項武に捕らえられ、そのまま彼の妻になる。そ

れでも姜子昌への未練が絶ち難く、彼への想いを遂げようと、餃子づくりに精を出す。

【金角・銀角】きんかくぎんかく

南天軍の兄弟武将。姜子昌の配下で六紋海の戦いで辛うじて生き残る。その後智への侵攻に失敗。その彼らの許に五丈の使者が…。

【龍緒】りゅうしょ

夏侯獣と共に、琥琰嶌洲、羅候の二君に仕えた老臣。実質的には練の宰相職にあり、法令、兵法、いずれにも造詣が深く、北伐にも帯同はしているものの、数多い将官の中にあっては、慎重派である。

【飛竜】ひりゅう

正宗の側近。姜子昌と共に兵学を学んだ仲であるが、互いに違う主君に仕えることによって敵味方に分かれてしまう。正宗から絶大な信頼を受け、その死後、智国復興に励むが、五丈の進駐を阻めず。

【蘭々】らんらん

華玉の妹。共に李張に学ぶ。道師としてその能力は未知数だが、紫紋の良き友でもある。玉の輿を狙ったりするなど、なかなかのしたたか者である。

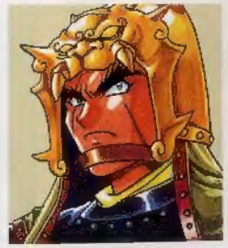
【華玉】かぎょく

玄偉の腹心。李張導師の高弟で、その秘められた力で玄偉の暗躍を助ける。偽帝討伐時には師真と功を争うが、

寸でのところで破れる。その後も刺客の梨扇を使い、雷暗殺を謀るが失敗。玄偉の滅亡と共に雷に降り、幕閣に迎えられる。

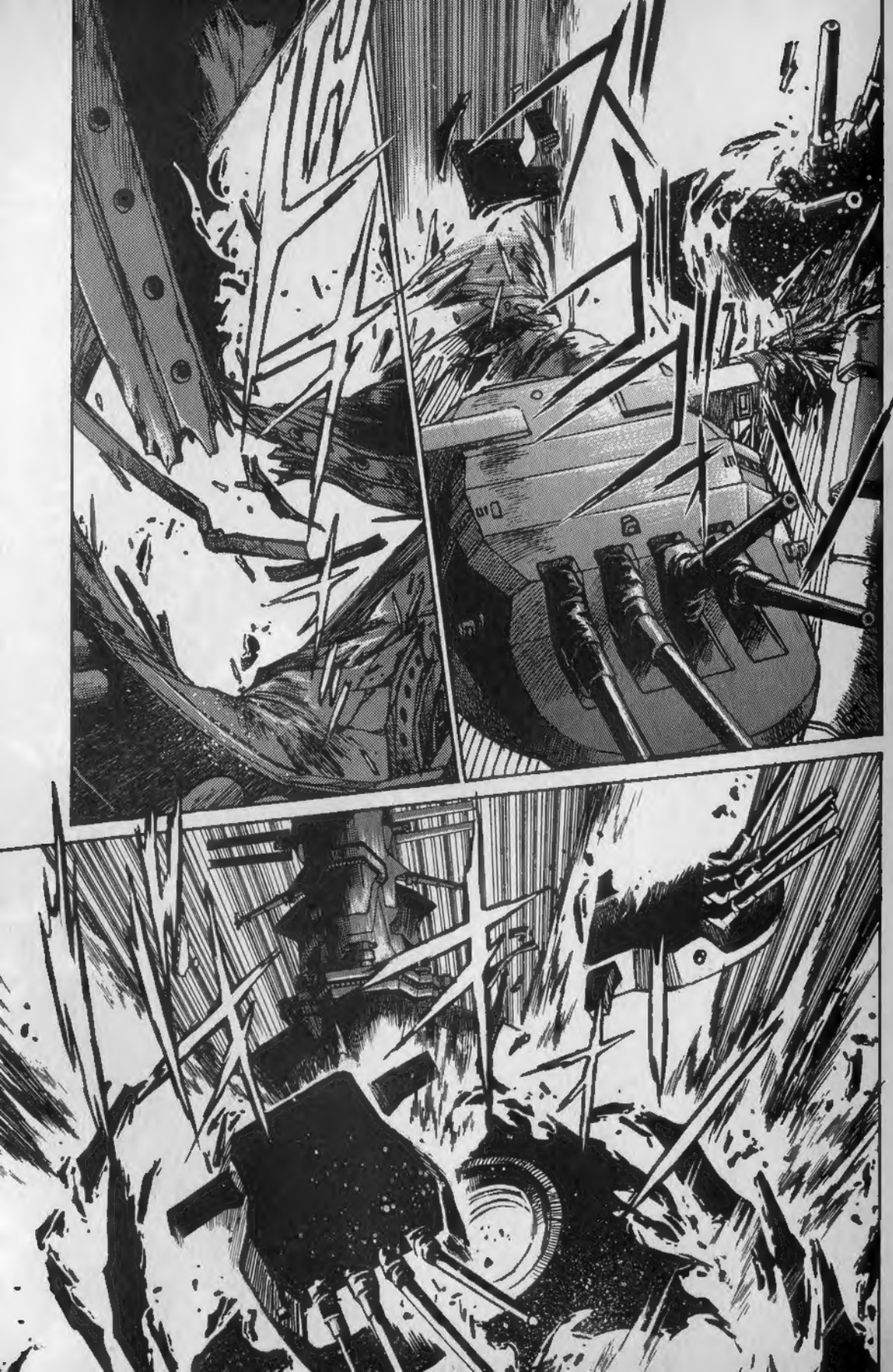
【秦宮括】しんぐうかつ

銀河の外周に位置する西羌国の統治者。雷の人間の大きさに感じ入った彼は雷との共存を謀るが…。

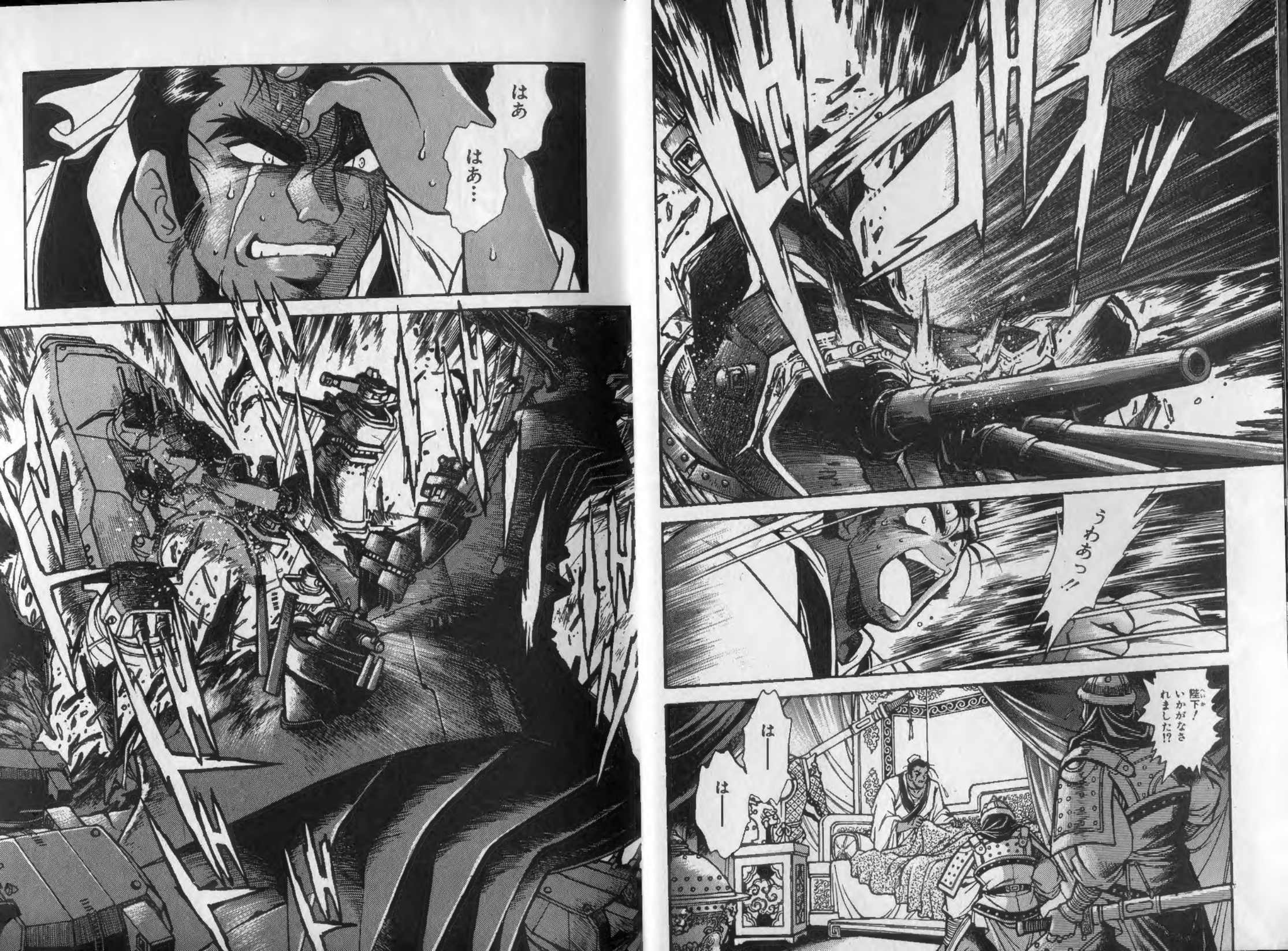


【孟閣】もうかく

冷静勇猛な剛将で、南征以後、常に副官として、経験不足な雷を適切に補佐する。歴戦の強者であり、その戦歴に裏打ちされた知識と経験を許に、よく雷を助け、雷が五丈王に即位した時に大将軍に任じられ、軍事部門での責任者として、その覇業に重きを成す。来るべき南征には無念にも留守居役に甘んじるが、西羌軍に対して寡兵ながら奮戦、壮絶な最期を遂げる。



紫紋！
紫紋わかるか？うちや…！
もうすぐ…もうすぐ雷が助けに来てくれるで…!!
せやから…
せやから気しっかりもつんやで！
ら…い…

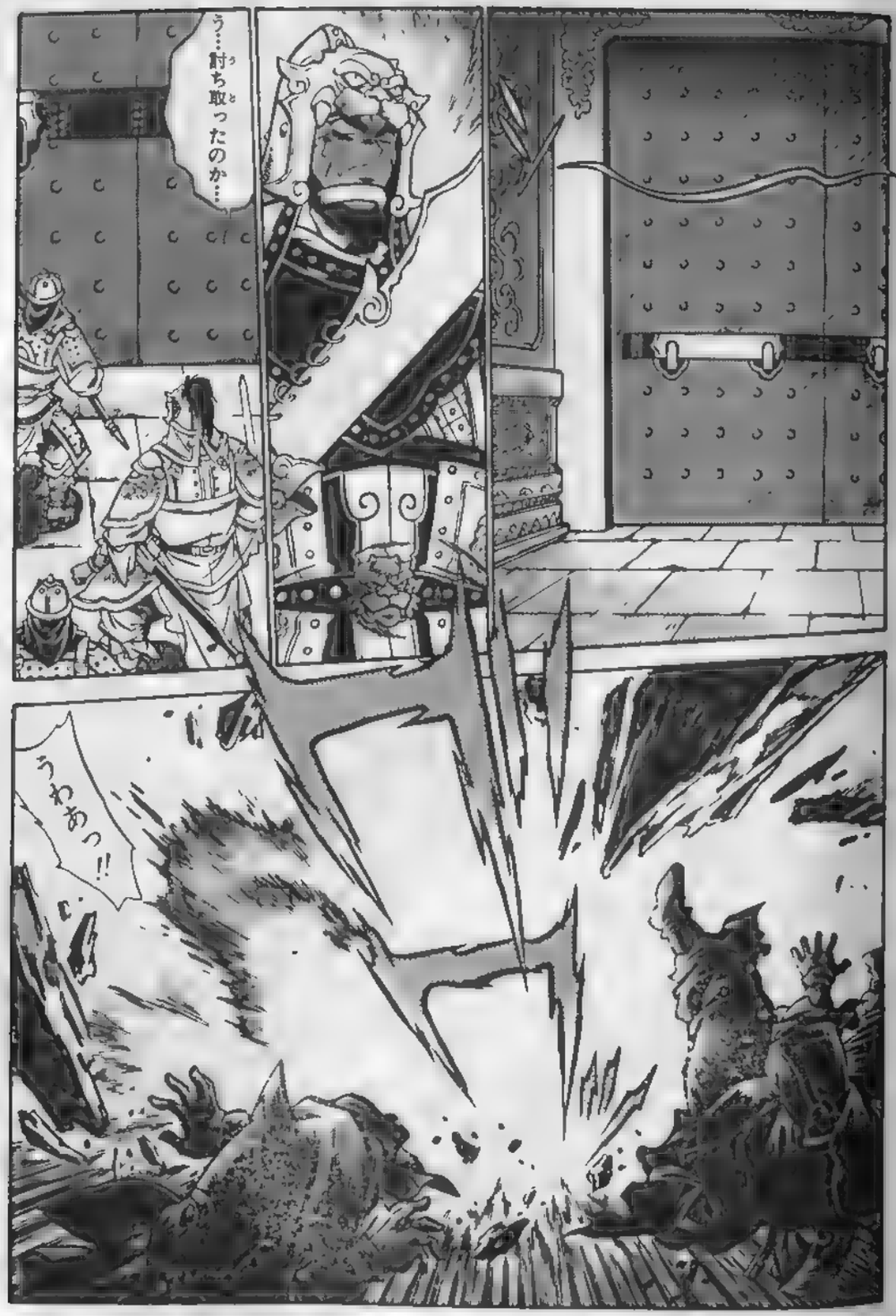

はあ
はあ…
うわあっ!!
陛下(へいか)！
いかがなさ
れました!?
は―
は―

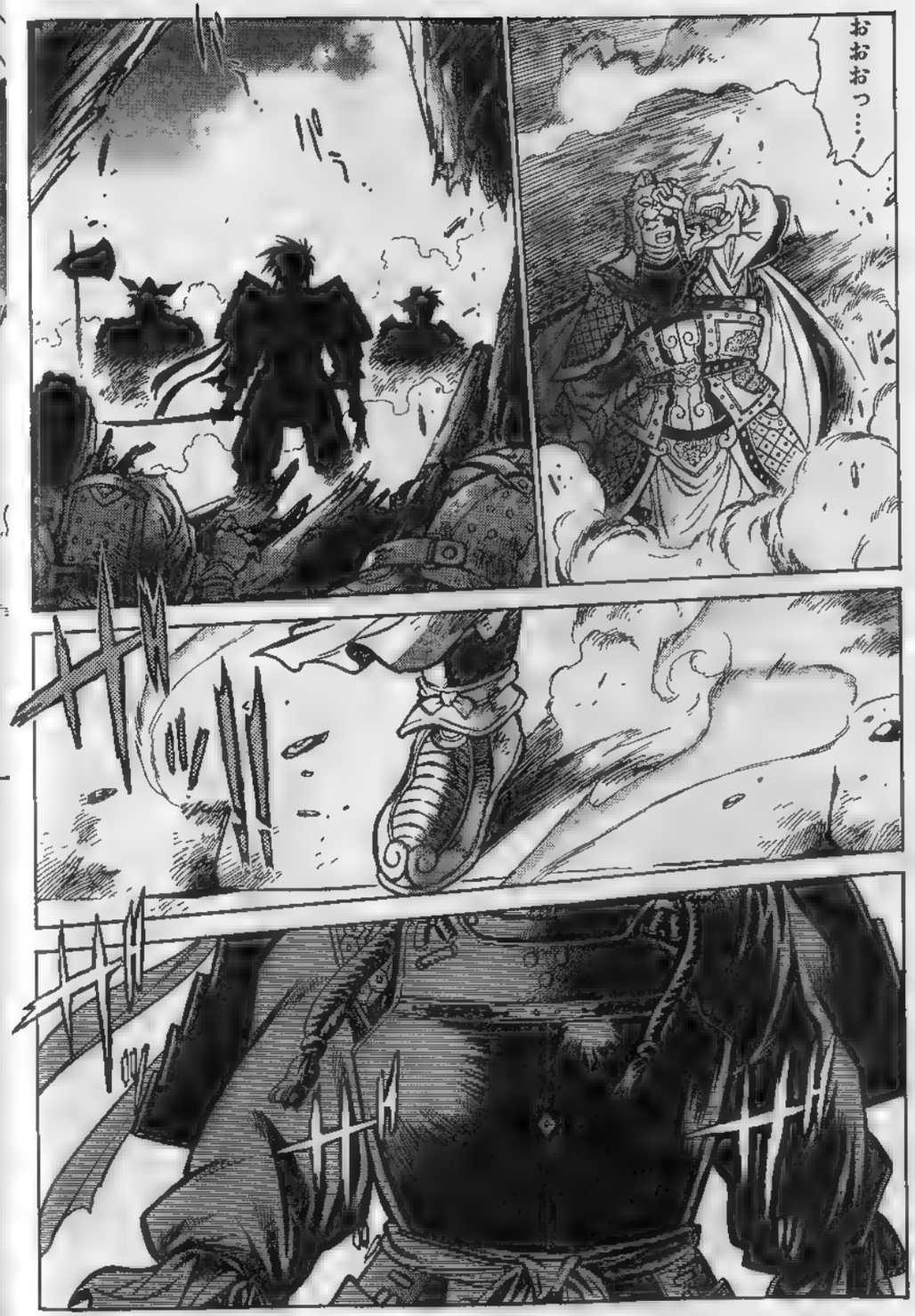
竜王は
わずか十日で
戻ってきたと
いうのか…
しかも
たった一撃で…
信じられん…

斉王都に
派遣した軍団が
壊滅!!?

三百万の軍団が
一夜のうちに
消滅したと
いうのか!?
バカな!
五丈軍の規模は
一体
どのくらい
だったのだ!?
わかりません…!
しかし突如
旗艦を一撃で
沈められ…
我が軍は
狂乱状態となり
辺りかまわず
砲火を浴びせたための
同士討ちが
さらに混乱に
輪をかけ
支離滅裂に
陥った軍団は
互いに踏みつけ合い
我が軍はもはや
なすすべを知らず
地獄の戦場で
ございました…!
……

竜王だ…!
これは
竜王自らが
攻めてきたのだ…!
も…申し上げます!
敵兵が
宮門を突破!
城内に乱入
いたしました!!
何いっ!?
宮門を
閉じよ!!


う…討ち取ったのか…
うわあっ!!


おおおっ…！

宮括よ…！
なぜ俺に背いた…!!
俺も…
皇帝にないたいからだ!!
皇帝にだと…？
ならば竜王に尋ねる!!
竜王は本心でこの俺と未来を分かち合うつもりであったのか!?　どうなのだ!?
……
答えられい!!
答えるまでもあるまい…！
天に二日なく民に二王なし…！

秦宮括よ…!!
俺に食われて
天下の糧となれ…!!!!
おまえの野望は
俺の血肉となるに
相応しい…!
さぞかし
食しがいが
あろう…!

ふ…
ふふ
ふふふふ
それが本心か
竜王…!!
それがきさまの
正体か…!!
食えるものなら
食ってみよ!!
例え食われようとも
この秦宮括…!
きさまの
臓物を
蹴破ってくれるわ!!

西羌王
秦宮括
斉王都攻防戦の後
斬死…！
享年三十四歳
己の野望と
竜王の間を揺れ動いた末の
末路であった…

孟起将軍!!
も…
も…
さ…
三楽斎様!?

孟闇殿…
力を貸してくだされ…!
ギッ
!!
おいっ
こんな所に
山神顧が
あるぞ
よし
開けてみろ
しっ!
人の声が
します…
どないしたんや
三楽斎…
ん…!

雷〜〜〜っ！
羅刹
梵天丸
おまえ達は
無事なんだな
すまん
遅くなって…！
ええんや
んなことより
早よ
紫紋の側に…!!
紫紋！

ハッ
ハッ
ハッ
紫紋!!
雷!!

紫紋！
俺だ
わかるか!!
ら…い…
いい…
そのままで…
無理をするな…
大丈夫…
です…
こうして
抱いて
ほしかったから…
こんなに
冷たくなって…
俺のせいだ…！

…俺が
南天なんぞを
取ろうなどと
思ったばっかりに…
許してくれ…
おまえに
こんな難儀を
させてしまった…
もうどこにも
行かぬ…
ずっと
側に
いてやる
だから
早く
良くなってくれ…！
紫紋…？
それはいけません…
雪…
あなたは
天下人に
なろうとしています
女の許に
停まることは
許されません…

紫紋が
そう言うんなら
そうしよう…
それまで
待っていて
くれるよな…
はい…

さあ
戻って…
そして
五丈全軍を
指揮なさって…
紫紋…
そして
一日でも早く
銀河を統一なさって…
戦の無い
平和な世界…
それが
あなたと私が
お互い追い求めた
夢なのだから…
わかった…

早く病を治してくれ…
はい…
祝賀の宴での舞を稽古してお帰りをお待ちしています…
ああ…楽しみにしている…
えっ？
ちょっと雷！ホンマにもう戻るんかい!!
嘘やろ!?なあもちっと側にいてやってもええやんか!!
雷!!

何でや…
何でやねん…！
紫紋！あんなんでええんか!?
せっかく雷が帰ってきてくれたんやで！
麗羅…
あの人のことを…
頼み…
ま…す…

な…何やねん
それ…
頼むって…
どーいう意味やねん!
答えんかい!!
紫紋!!
私は信じています
あの人が作る
争いがない
平和な銀河を…
もう一度と
大事な人を無くして
泣く人のいない世界を
君は必ず
約束は
守ってくれます
なぜならそれが
私達が出会った
時からの

夢なのだから――…

畜生！
西光のこそ泥が！
好き勝手
しやがって～～！

まあ
あいつのことだ
そこらの西光兵に
やられちまうことは
ねーだろうけど…
帰ってくるわけ
ねえか…
好きでここに
来たわけじゃねえし…
これ幸いに
逃げ出したって
責められねえよなあ…

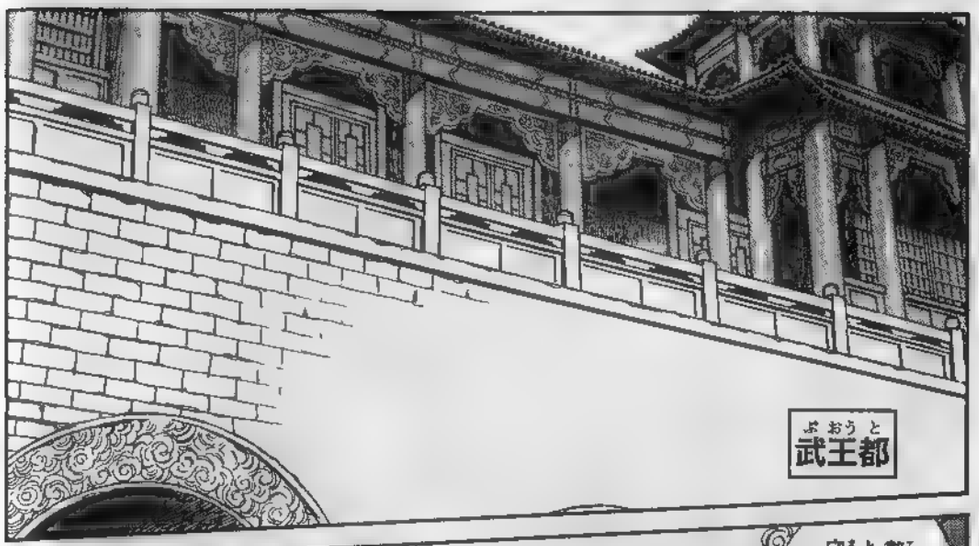
あれ？
神楽!!
な…何だよ
あんた…
いつの間に
帰ってたのさ
!!
おまえこそ
どうして
逃げ…
しょうがないな
腹減ってるんだろ？
何か作ってやるよ
……
といっても
鍋とか
残ってるのかぁ
ほら
あんたも薪か
何か焼べるもの
集めといてよ
あっ
はい
はい

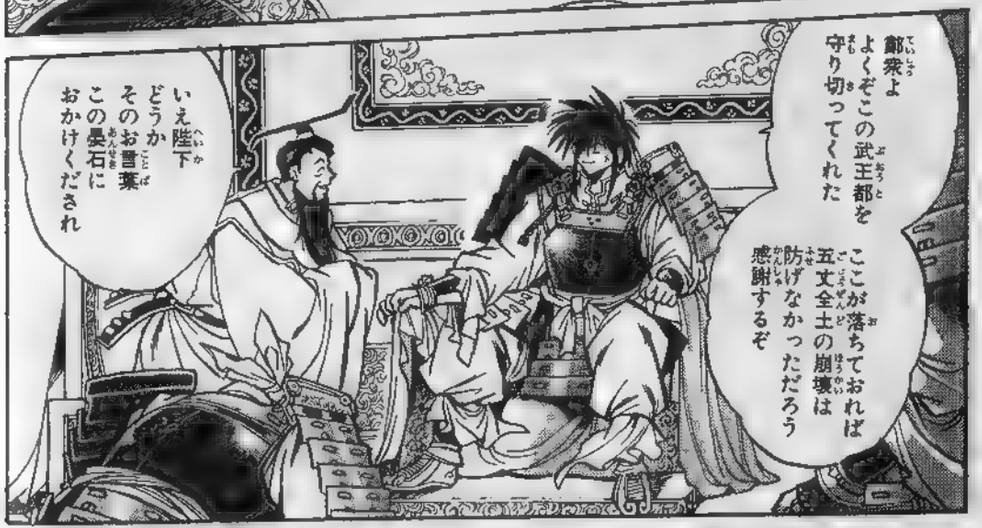
……
……
…でどうしてここに残ってんだ？
ズー
いいじゃん別に——
だまって食いなよ！
けっ！てっきりやっかい払いできたと思ってたのによう！
ところできー姜子昌様への餃子渡してくれた？
んろ!!

やめとけって！
やめとけって何をよ？
あーんなスカした野郎おまえなんかにはもったいねえ！
不釣り合いだ不釣り合い！
なっ…!!
んなことあんたに言われなくてもわかってるわよ!!
けどあたしだって夢見たっていいだろ!!
へ？
だ…だからあの餃子は俺が食った！文句あっか！
アホウ！おまえは俺ぐらいがお似合いだ!!
俺の指導のおかげでしこたま美味かったぞ！

みし!!

雷を乗せた金剛が静かに斉王都を離れたのは乱を鎮めてわずか三日後であった
斉王都沖で雲海率いる後■に合流した雷は孟起・雲海の二将に西羌への進撃を命じた
この度の西羌国寝返りの首謀者皇太后とその取り巻きを永遠に排除するためである


武王都


鄧飛よ
よくぞこの武王都を
守り切ってくれた
ここが落ちておれば
五丈全土の崩壊は
防げなかっただろう
感謝するぞ
いえ陛下
どうか
そのお言葉
この晏石に
おかけくだされ

ほう？
というと…
斉王都が落ち
敵の主力に囲まれ
ややもすれば
弱気になった
我々を叱り
策をもって西兗軍を
釘付けにいたしたのは
他でもない晏石に
ございます
お…お初に
お目にかかります
晏石と
申します!!

晏石とやら
俺が十日で
もどるのが
わかっていたのか？
か…確信を持っていた
わけではございませんが
常道を持ってしては
敵を敗れぬと思いまして
そうか
さあ
これを持って
斉王都に行くが
いい
心労で起き上がれない
三楽斎を
補佐してやってくれ
は？

そ…
それがしを
都尉に…!!
鄧飛
そちを録尚書事代理に
任命する
これより都に代わり
武王都にて行政の
総指揮を執れ
都は万事
人手不足
その地位で
自分の才を存分に
ふるうがいい
ははっ
国政を滞らせぬよう
粉骨砕身
いたします

お疲れでしょうに
もう二・三日
逗留なされて
お身体をお休めに
なられましては
いやそうもいかん
南天の方も
一日とて目は
離せんからな
ん？
じいさん！
斉王都では
災難じゃった
ようじゃのう

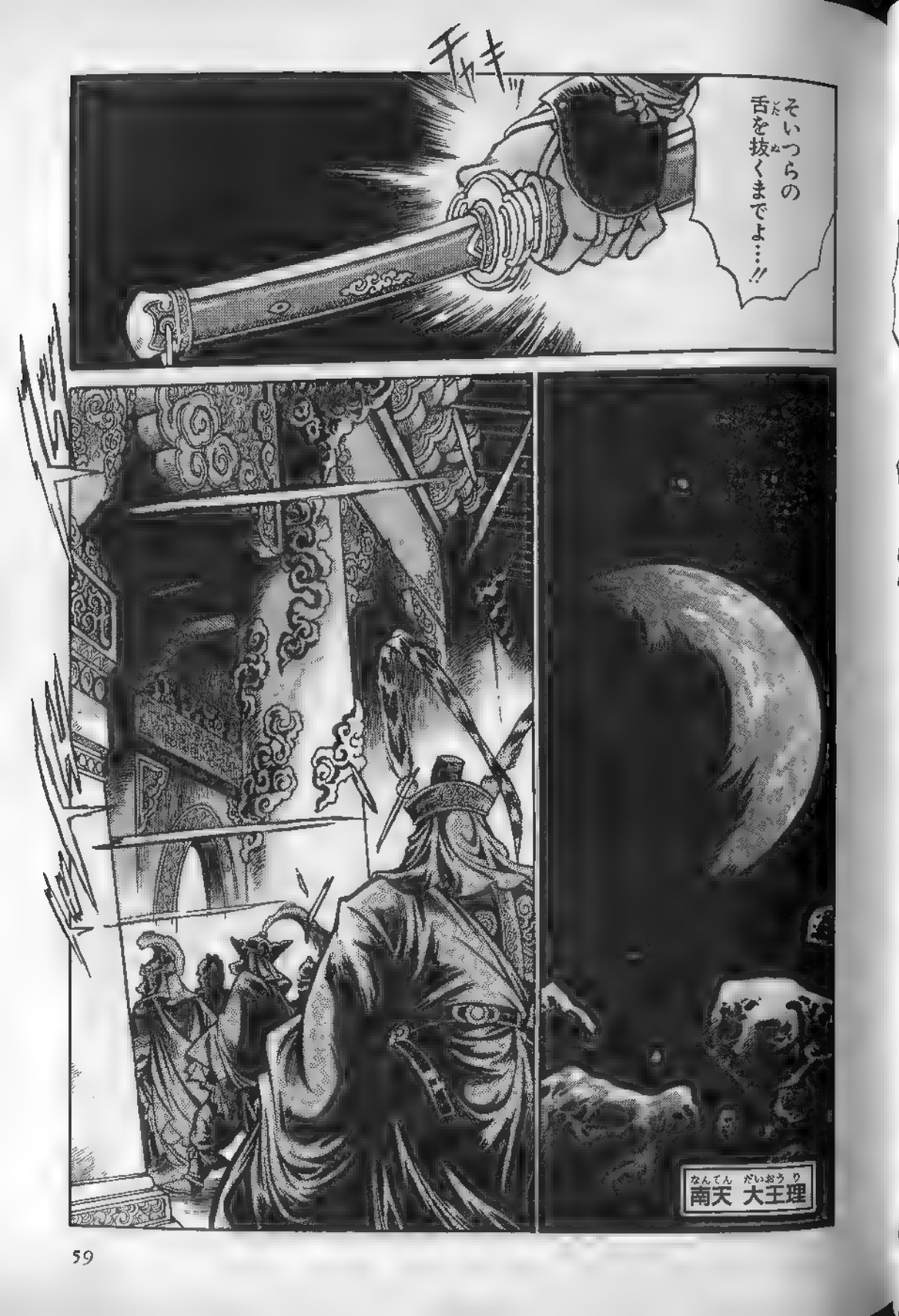
おぬしも
辛かろうに
……
じいさん
あんたの弟子でもある
華玉は助け出したぜ
かなり暗い状況だったが…
そうか…
本人は拒んだが
南天に連れて
行くことにした
傷を癒せるのは
師真しか
いないと考えてな
うむ…
金では
俺の責任だ…
奴を…
秦宮括を
見誤ったことが
この災いの元だった…!!

牙を抜き
飼い慣らしたものと
思っていた
あの男に…
俺も皇帝に
なりたいからだ!!
…とまで
啖呵をきられるとは…
奴の野心を
見抜けぬほど
俺の目は
曇っていたのか…!
皇帝にか…
それは
あの男の本心
かのう…
何?

おぬしの天下統一への
計り知れない
野心が…
奴にそういわせたとは
思わぬか?
おぬしの野心に
押しつぶされまいとした
あの男の
精一杯の抗議の
声だとは…
……
野心は人を
狂わす
だがそれは
本人だけではなく
周りの者も
狂わすことになる
ふふ
ふはははは

俺は悪人か？
じいさんよ…！
……
すると何か？
俺は自分の野心のために妻も部下も そして盟友までも無くしたというのか？

何を今さら…
悪人も悪人！大悪党じゃ!!
こんな時代に自分の思うがままに生きようとする輩はみんな大悪党じゃ！
そうじゃろ？
なるほどな
じいさんうまいこというぜ
じゃろう


チャキ
そいつらの
舌を抜くまでよ…!!
南天 大王理

俺の野心で
狂う奴が居るなら
それはそれで
けっこう!
みんな刈り取ってくれる!
やがて銀河中が
俺の野心の前に
稲穂のように頭を
たれて
刈られるのを
待つようになる
俺はそれを全て
刈り取り
この銀河を
無垢の大地に
変える!
俺の声が
どこにいても
聞こえるようにな…!
俺は
人に愛されるより…
恐れられる
皇帝になる…!
そして
千年いや万年をも
続く
大帝国の礎を
築くのだ!!
それを悪党と…
暴君と呼ぶなら
呼ぶがいい!

一方 雷に後事を
託された師真率いる
五丈軍の占領下にある
南天にも五丈国内の
争乱による黒い影が
差しかかっていた——

西羌からの誘いかけと
動かぬ五丈軍による
軍事的威圧の中で
板ばさみ状態の
南天諸国の部族長を
師真は大王理まで
呼びつけた

竜王を盟主とした
新南天部族長会議で
ある

ここで師真は
各部族長に
改めて忠誠を
取り付けようと
していた

しかし部族長側にも
事態の成り行きを
見極めようとする
空気が支配的で
会議は不穏な
様相を呈していた——

紅孩族
西海竜族
虎力族の
姿が見えぬようだが…

……

どうやら
貴公ら南天
諸部族の中には
我が五丈の威光を
軽んじている者が
おるようだが

貴公らは
我が主君を
盟主と仰ぐと
誓ったばかり！

それを舌の根も
乾かぬうち
このありさまとは
南天人の言葉の
重さとは
この程度のものか！

我々が
盟主と決めたのは
丞相様
あんたではなくて
竜王様じゃ！

竜王は
ここにはおらぬ！
西光との戦の
ために
五丈に帰ったのだ!!
ここにおる
五丈軍は
虚勢を張っている
だけだ!!
なあ
皆の衆！
我らの新盟主は
五丈と西光の戦いを
見届けた後に
決めてもよいのでは
ないか!?
オオッ!!
竜王様は
ただ今
気分が優れぬ
よって
この私が
竜王様のお言葉を
皆に伝えて
おるのだ…
うそだ!!
竜王様は
どちらじゃ
どこに
おられるのじゃ？
何！
我々は竜王様の
強大なる武威を
頼みとしておるから
五丈の法律にも
従っておる
兵糧も兵も
提供したのじゃ
そうだ
そうだ
竜王を出せ!!
ひかえぬか！
そのような
戯れ言で皆を
扇動することは
許さぬぞ！
いやだね！
我々には自分の
部族の運命を
自分で決める
権利があるぞ！
我々は国許に
帰る!!
師真様…
何たることか…
竜王の存在
いかんで
こうも箍が
緩むとは…
ええいっ
どけい!!
邪魔を
するな!!

皆の者！
面を上げいっ！
うっ…！
これでよく
わかっただろう…！
おまえ達が
目にしているのは
一国の滅亡の証人達だ

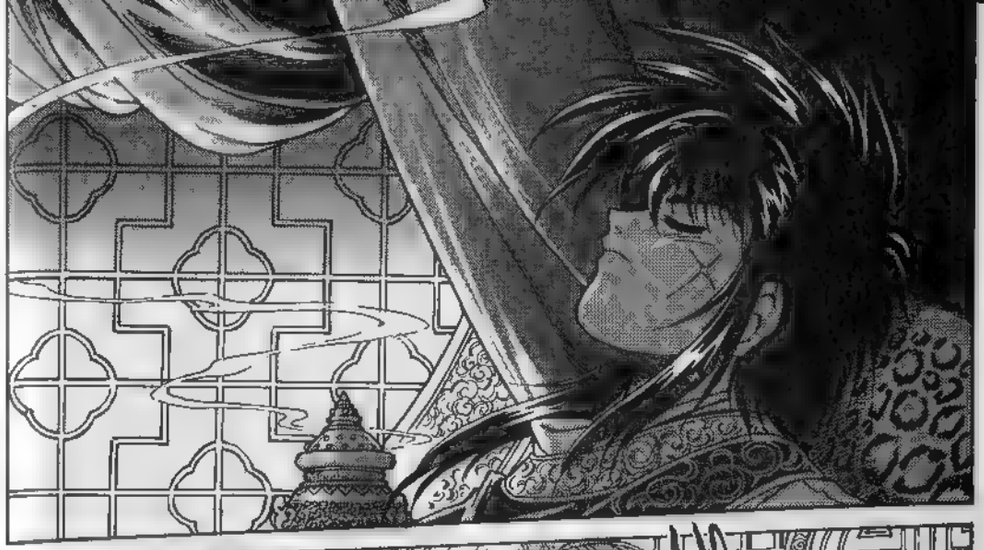
うっ!!
竜王様！

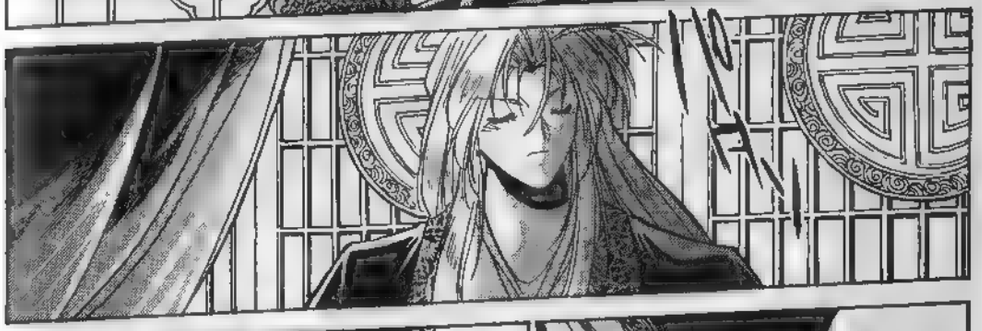
欠席している部族があるようだな
呂朱！鐘才！
はっ有力部族がいくつか…
はっ鐘才ここに！
その方ら三百万の兵でその部族を攻めよ！
はは――っ!!
よいか！男は皆殺しにし女・子供は奴隷に売り払え!!
いやそれはお待ちください竜王様！
何とぞお慈悲をおかけくだされ

欠席している部族には我々が責任を持って参上するよう説き伏せますゆえ…何卒…!!
竜王様!!
皆が責任を持つというのだな
はは――っ!!それゆえご寛大な処置を!!
よかろう
だが俺を南天の主と思うならばまさに忠節をつくせ！今後絶対に傲慢不遜な態度は許さん!!

はは――っ!!
竜王様!
ただ今
孟起・雲海
両将軍より
早便にて
西羌皇太后の
首が届きました
西羌の領民が
差し出してきたのだろう
はっ
おっしゃる通りで
ございます
首改めを
なさいますか?

いや
それには
及ばぬ
三日間
城門に晒した後は
公旦に引き渡せ
ただし
葬儀は
親兄弟の格式で
とりおこうなうこと!
柩・葬服・墓石に
王侯の印を入れることは
許さぬ!
竜王様
それでは
あまりにも…
林!
やつらは
謀反人だ!!
それは
公旦も
わかっている…!
やがて
雷の電光石火の
西羌鎮圧の武勇談は
またたく間に
五丈全軍に
知れ渡った
兵達は
その果断さぶりを
称え
夜遅くまで勝利を
祝う声と凱歌が
途切れなかった





斉王都での
詳しい報告は
読んだ…
そうか…
おまえには
わびねばならん…
華玉には
死より辛い
思いをさせて
しまった
いや…
命があっただけでも
感謝している

本人も
自分は強い女
だからと…
充分
いたわって
やってくれ…
心の傷を
癒せるのは
おまえだけだ
……
おまえの
傷は？

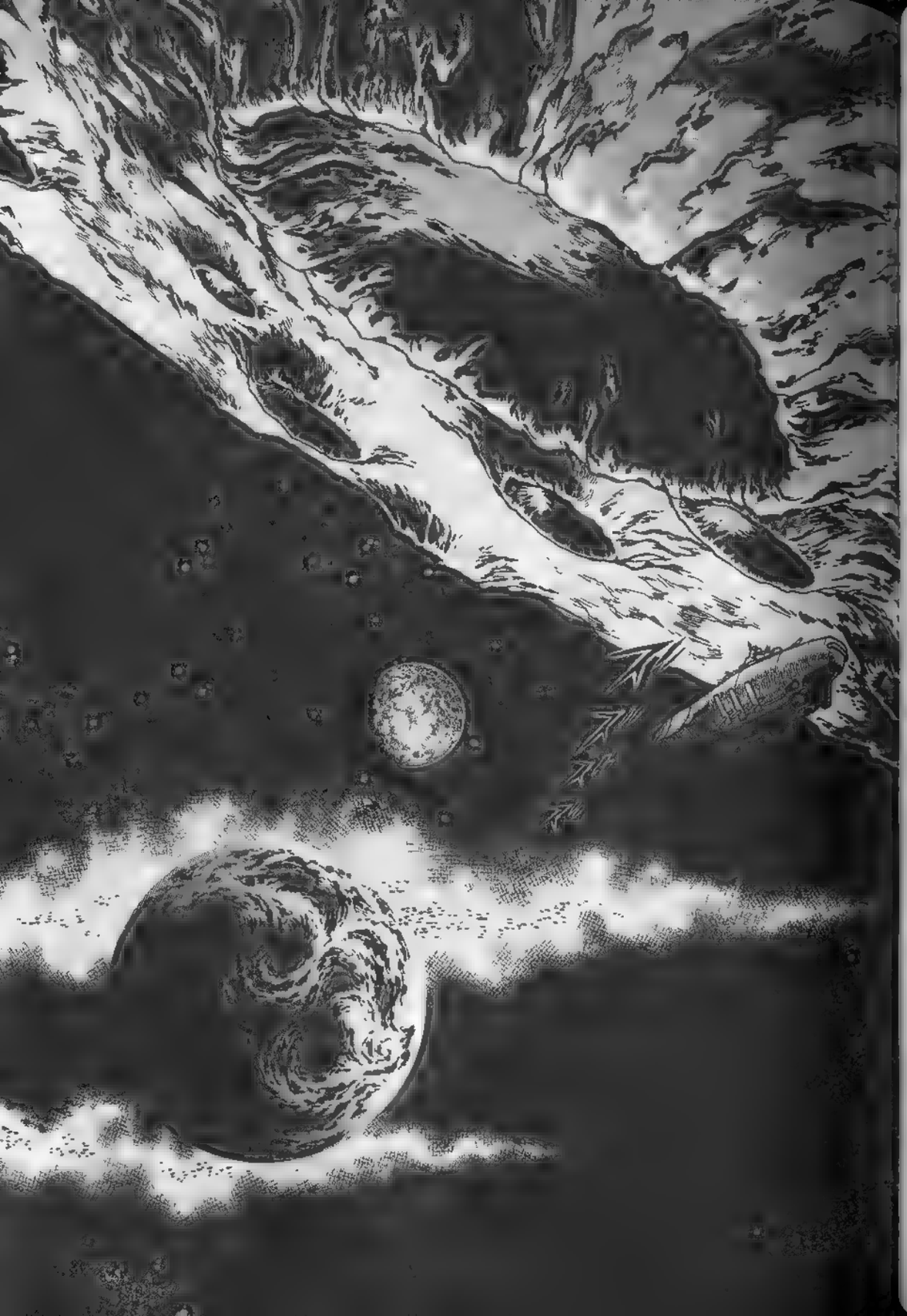
おかしいよな

天下を目の前に
しておきながら…
自分の女一人
守れなかったとはな…

変わったな
おまえ…
以前は
そんな自嘲気味に
笑いはしなかった
自分の内に
何もかも
隠すことなど
しなかったはずだ
少なくとも
俺の前では
そんな顔は
しなかったろ
くやしいさ…
西光のやつらも…
それをたきつけた
南天のやつらも
八つ裂きに
してやりたい…!
みんな
一人残らず…
俺のこの手で…!!
だが
そうしたって
紫紋は帰って
こない…!!
どうしてもだ…!!
それが
俺には
くやしすぎるのだ!

悲しい時は
思いっきり
泣けばいい
その悲しさと
くやしさと
俺にならぶつけられるだろう

雷
いつも自分の心に
素直だから
おまえの強さがあった
自分にも他人にも
うそをつかないから
皆がついてきたのだ
なのに
そのおまえが
悲しみも
くやしさまでも
ひた隠そうと
している
なぜだ？
偉大な
支配者は
泣いてはいけないと
思ったのか？
いや…
違うな…
それを
ぶつける相手が
いなかっただけだ
男が泣いては
いけないと
だれがいった？
だれが
決めた？



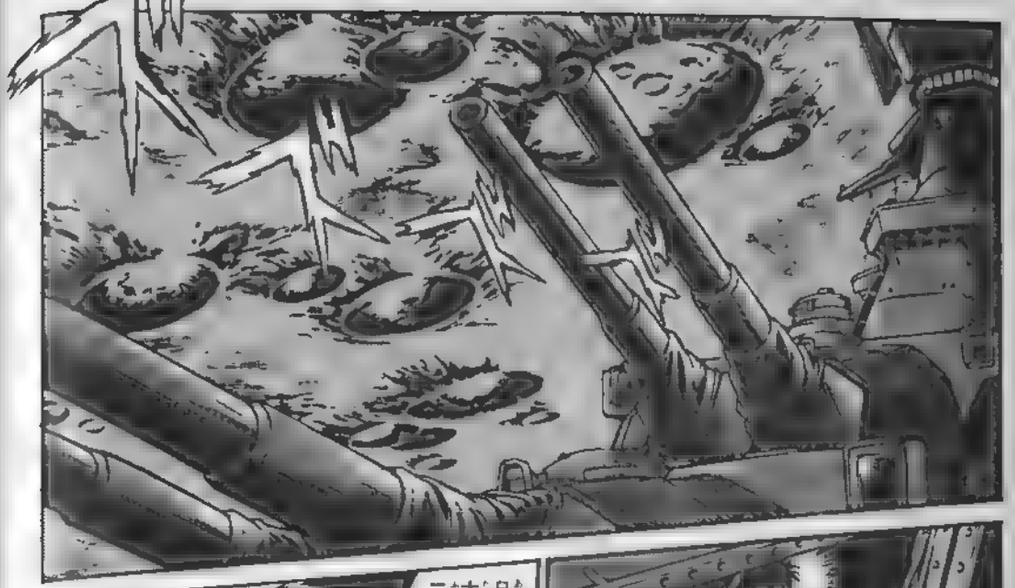
そうか
竜王は
もどってきたか…

所詮西羌も
南天もすでに
一国では竜王には
太刀打ちできぬと
いうことだ…

だが
俺のこの策を
使えばやれる…!!

竜王と
大覚屋師真…

二人を
必ず殺せるのだ…!!!



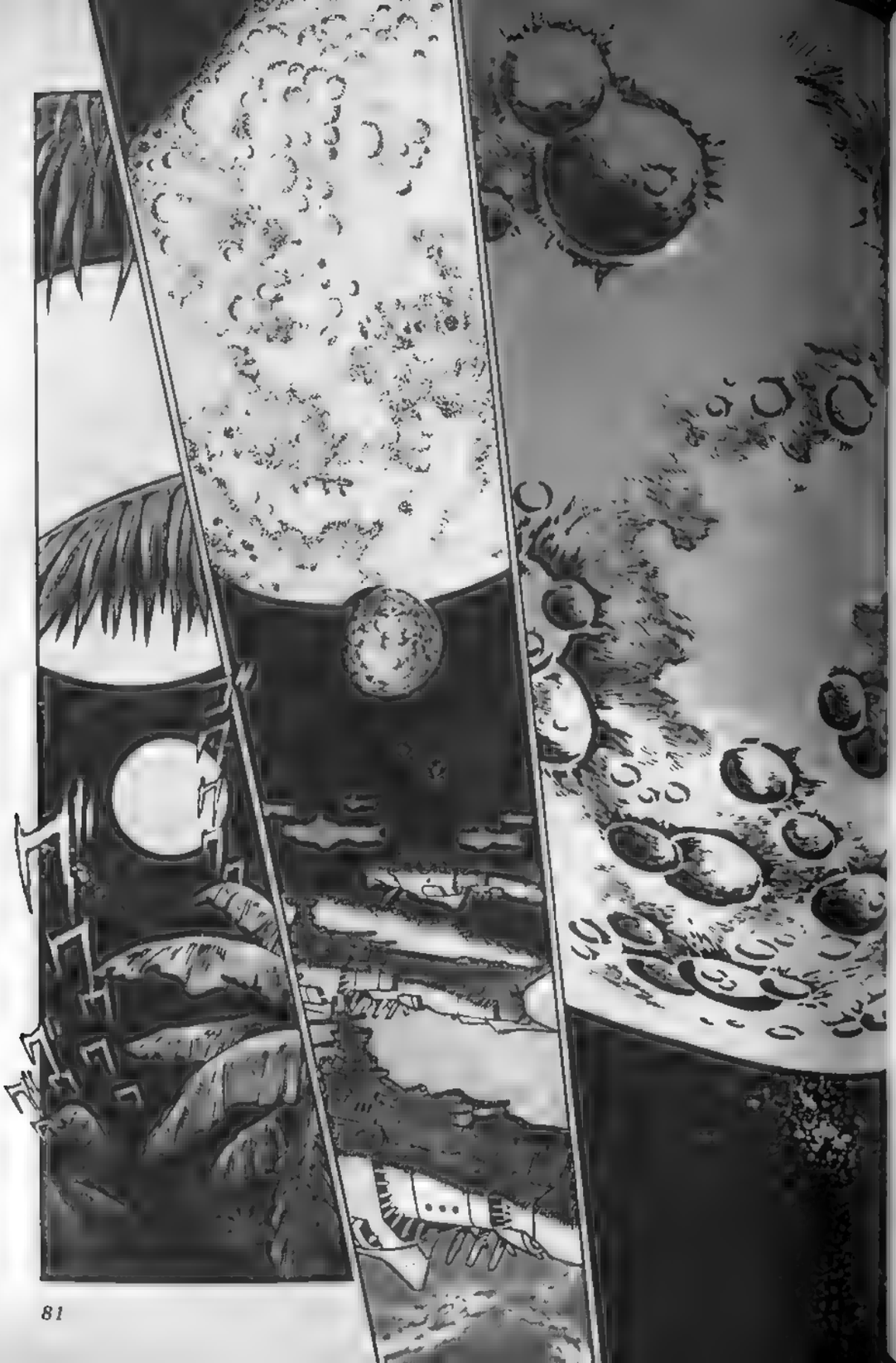
兄月と弟月
大王理の
二つの月か…
この光景は
時代がどう変わろうと
あくまで蒼く美しい…

姜子昌様
全て手配が
完了しました！
五丈軍に
動きはありません
油断しきって
おります！
ご苦労

皆の者
よく聞け！
此度の私の策で
必ずあの竜王を
倒せる!!

だが…
犠牲も
大きいだろう…

我々は
何も知らない
大王理の住民全て！
女・子供も含めて
六千万人をも
敢えて犠牲に
せねばならぬ！
たった一人の
男を殺すためにだ！



だが後世
鬼と呼ばれようとも
この汚名は全て
私が被る！
おまえ達は
全て〝わたしの命〟で
動いたのだ
よいな!!
大将軍
そのようなこと
ご案じなさら
ないでください
我々は奏子昌様と
思いを一つにして
戦っているのです

魏王を殺すことが
殿もお守りし
延いては南天による
天下統一に
繋がるのです！
そうです！
我ら一同
この任務に
誇りを持って
おります!!

大将軍！
我らに下知を!!

俺も最初の頃は
耳鳴りまで
したもんだがな
慣れりゃ
この子守歌が
無ければ
寝られなく
なるぜ
素敵な月ね
え？
まあな
でかい方を
兄月
小さいのを
弟月と
いうそうな
知ってるか？
兄月の方は
月と呼ばれていても
この大王理の
周りを回ってる
わけじゃねえんだってよ

どうした
寝られないか？
ええ…
無理もない
南天の
虫の声は
でかいからな
育ちが
違う

少しだけ…
心配だったから…
そうか…
そいつは
良かった…
大将軍…
うむ…！

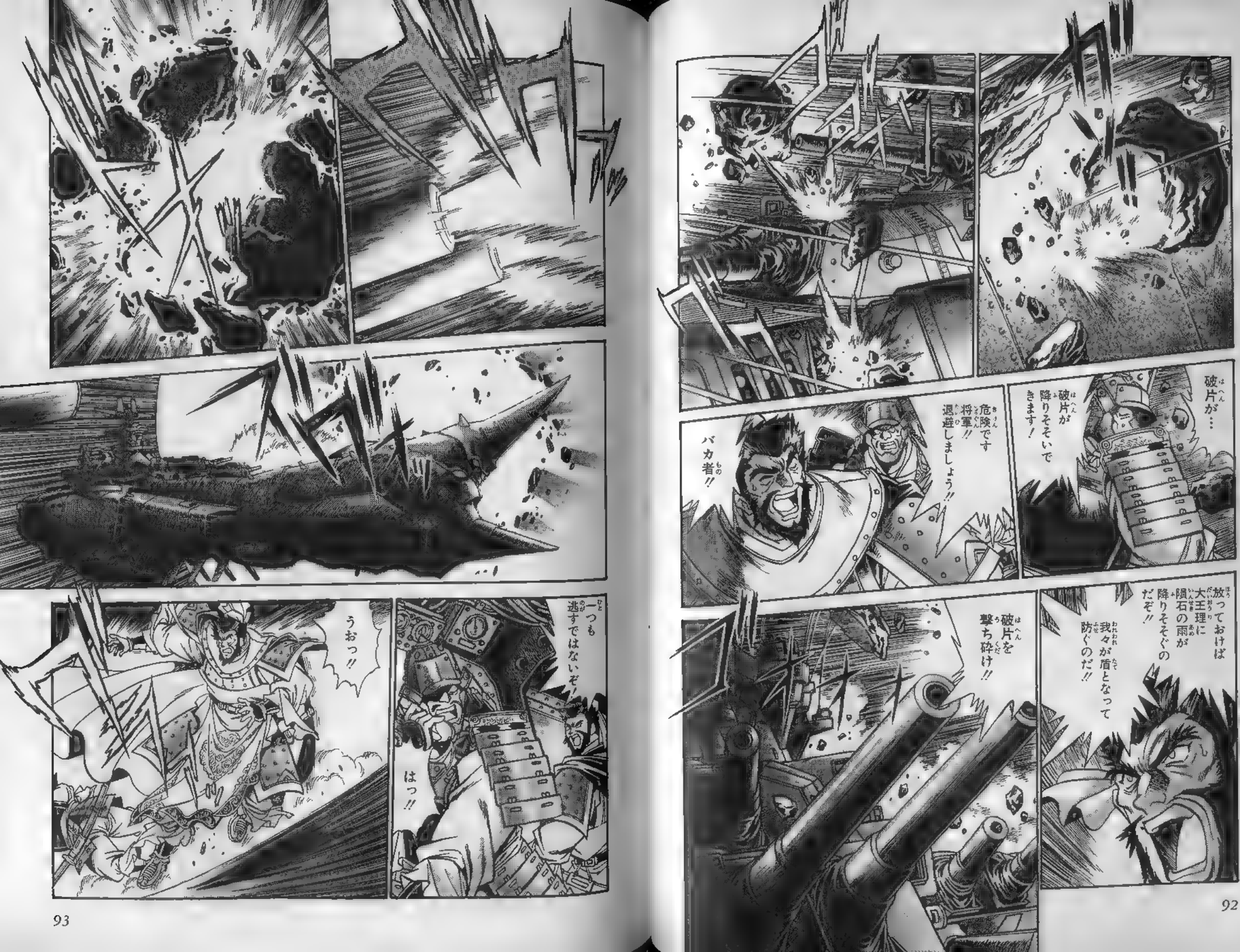
ありゃ
月なんかじゃない
この大王理とは
大きさもほとんど
変わらねえ
兄弟星だ
その兄弟星が
小さな弟月を
中心に回って
やがる
違いといえば
たまたま
この大王理に
人が住みついた
だけのこと
今じゃ
兄月は岩だらけの
不毛の星だが
もしかするとあっちの方が
南天の都になったかも
しれねえって■だぜ
ん？
何だ？
いや…
その…
ありがとう
抱いてくれて

竜我雷…
大覚屋師真…
地獄へ
落ちるがよい…!!!
きさまらの
悪運も
これまでだ!!!
ん…
あ…

…ったく
無遠慮な
虫共だぜ
しらんうちに
この出歯がめ
野郎が!
ちったあ
だまって…
!!

隕石でもぶつかったんでしょうか？
そんなことはどうでもいい!!
全軍に非常警戒!!
戦闘態形を取りあらゆる事態に備えよ!!
すぐに大王理に急使を出してこのことを竜王様と丞相にお知らせするのだ!

何だ!!
何事だ!?
敵襲か!?
こ…これは…!?
月が…小さな月の方が爆発しただと!?
そんなバカな!!


破片が…
破片が降りそそいできます！
危険です将軍!! 退避しましょう!!
バカ者!!
放っておけば大王理に隕石の雨が降りそそぐのだぞ!!
我々が盾となって防ぐのだ!!
破片を撃ち砕け!!
一つも逃すではないぞ!
うおっ!!
はっ!!

ゴゴゴ

雷…
月が…
兄月が
動いている…
雷…！
紫紋…!!
!!
どうしたんだ？
紫紋…
なぜ
そんなに
悲しそうな
顔をする…？

何か俺に伝えたいのか？
そうなんだな？
紫紋!!
!!

何だ…？
この不快さは…

……
雷!!
師真!
急げ!
ここを
脱出するんだ!!
脱出だと?
どういうことだ
我々は
この大王理ごと
罠にかかって
しまったんだ!!
何っ!!

ゴゴゴ

月が大王理に落ちるぞ!!
防げ!
防くんだ!!
む…無理です
防く手段が
ありません!!

きゃーっ!!
ひいいっ!!

月が落ちてくるだと!?
そんなバカな!!
そのバカなことをしやがった奴がいるんだ!!

二つの月と大王理…!
一見美しい光景だがその内実は実に不安定な重力の調和の上に成り立っていた…!!
不覚だった…!!

待ってくれ――っ!!
俺達も乗せてくれ!!
ええいっ!!
離れない奴は斬れ!!
わあああ

お急ぎ下され!!
よし出せ!上空の金剛に戻るのだ!!
住民です!
わあああ

ふふふふ
これで終わりだ……!!
竜我雷!
そして大覚屋師真……!!

上に気を付けろ〃
食らったら一たまりもないぞ〃

わあ!!

左だ!
左に切れ!!!
大王理に…!!
大王理に落ちるぞ!!

大王理が!!
奴だ…!!
大将軍姜子昌…!
このような策を
考えつくのは
あやつしか
おらぬ…!!!
それでは
姜子昌は
自国の領民を
犠牲にしてまで
我々の抹殺を…!
見事なまでの
冷徹な決断力と
それを押し進める
行動力…
兵無き将と
高を括っていたが…
考えが甘かった…!
何が何でも
奴の所在を
見極めるべきだった…!!
詮索は
後回しだ
師真!
今は
生きのびることを
考えろ!
星を潰したぐらいで
俺を殺せると
思っているのか
姜子昌!!

ていっ!!
ぬおおおっ!!

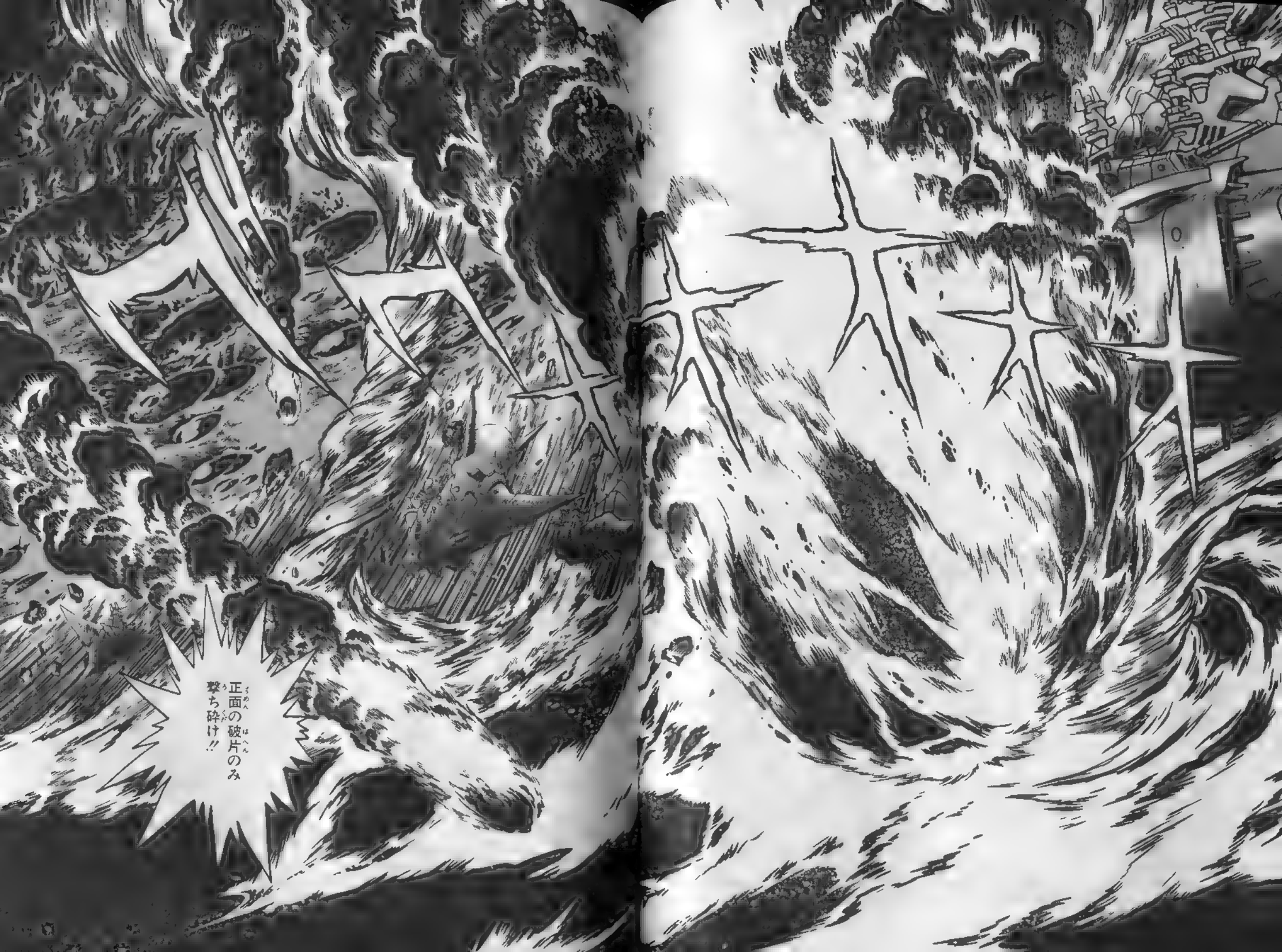
大将!!
お助けに参りました!!
俺が来たからには大船に乗ったつもりでいてくだせい!
項武!!
うおりゃああ!!

ズゴゴゴゴ
おおっ!!

項武!!
だーっはは
平気
平気!
将軍…!
前!!
うおっ!?

か〜〜〜〜っ!!
こいつは
砕くには
でかすぎるぜ〜〜〜っ!!

金剛!!!
陛下。
よくご無事で!!
討ち取った者の首!
恐出する!!
持ち場につけ!!!
おおっ
金剛だ!!
将軍も倒がっている…!
魔王様はご健在だぞ!!
よし
金剛を中心に
輪形陣を
取れ!
血路を
開くのだ!!


正面の破片のみ
撃ち砕け!!

ゴゴゴ
砲塔右舷
指向!!
だめだ…!
間にあわん!!
かまわん
ぶつけろ!!
ラおおおっ!!

オオオ

機関が
焼き付いても
かまわん!!
飛ばせ!!

!!!

兄月、
大王理へ
落下〃

勝った…〃

うわあっ!!
やった…!
やったのか!?
竜王を殺せたのか!?
ゴオオオオ

ゴゴゴゴゴゴ
ばかな…!!!

金剛だ！
竜王様はご無事だ!!
ふう…
やれやれ…
俺に付いてまわってる悪運はまだ尽きてなかったようだな…！

竜王様！左前方岩礁近くに敵艦が一隻います…
奴だ！姜子昌が乗っているに違いない！
これだけの大仕掛けだ結果を見届けに来てるはずだ!!

逃すな!!

ゴゴゴゴ…
無念です大将軍…
……

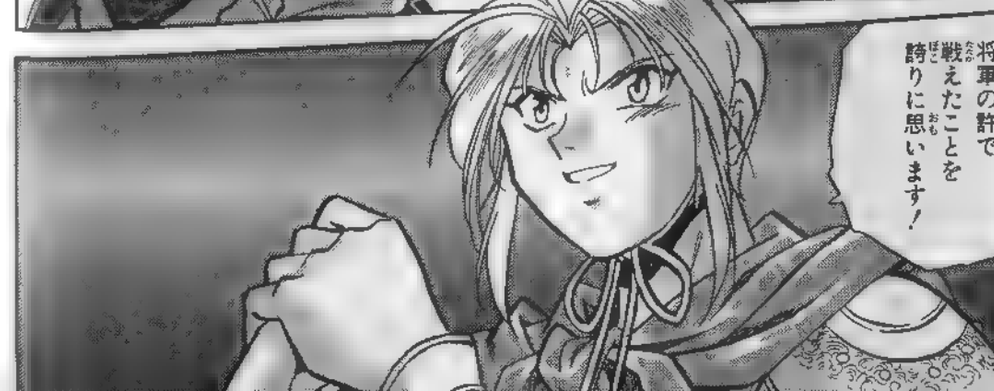
なぜだ…
なぜ奴は死なん…!!
日々戦で多くの兵士が死に今大王理の住民が一人残らず死んだ…!
なのになぜあやつだけ死なないのだ…!?
奴は人ではないのか!?
なら俺は一体何と戦っているのだ!?
姜子昌様…!
発見されました!!
敵艦四・五十向かってきます
!!
反転だ!!

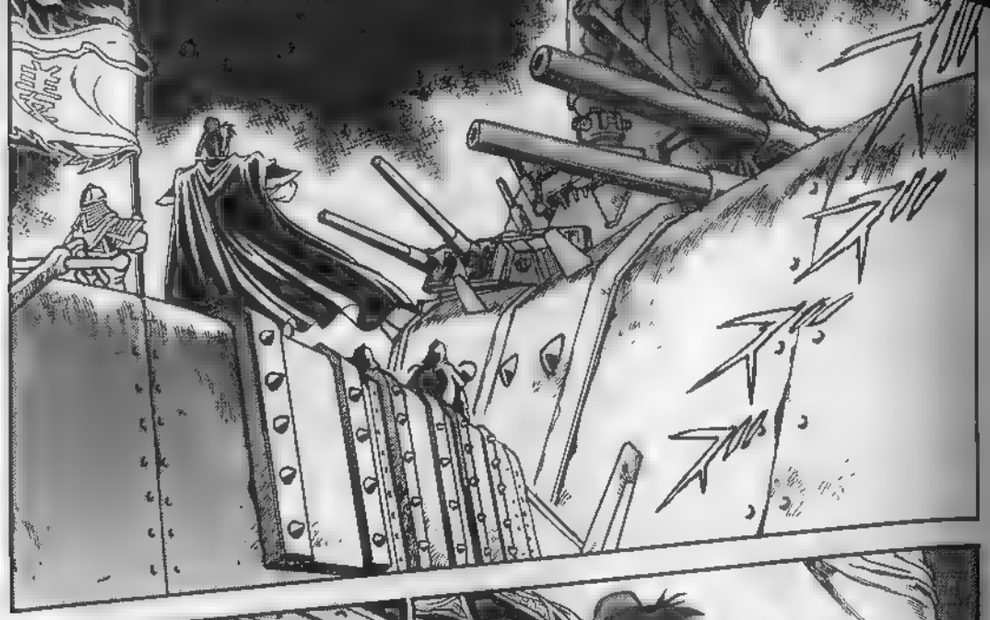
もはやこれまでか…!
この姜子昌生き恥をさらす気はない!!
お待ちください!!
ええい離せ蹄庖!!
いいえなりません!!自害などさせませぬ!!
恥をしのんでも生き長らえて竜王を討つ…!これが姜子昌様に課せられた責務でございます!!
ぬかせ!軍勢もなく策破れた俺に何ができるか!

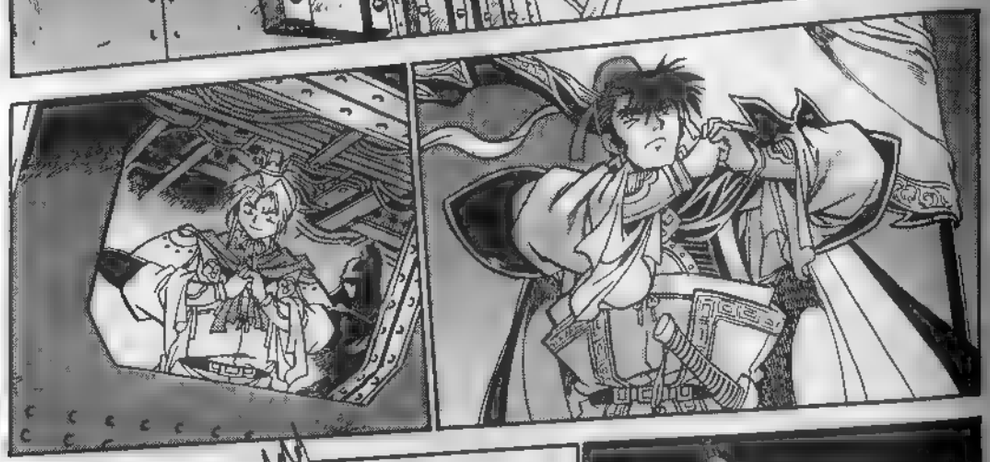
おそれながら…
生きてこそ
竜王が討てるの
です!!
死んで何が
できましょうや!!
生ある命こそ
邪悪なる者を討つ
最良の武器で
ございますぞ!!

蹄庖…!
ここは
我々におまかせ
あれ!
大将軍には
次の新たなる策を
思案なされませ…!

お互いそれが
殿の御ために
なりましょう!
ハラコゴナル


将軍の許で
戦えたことを
誇りに思います!





ベオオオオ
反転して
向かって
来ます!!
こしゃくな!!
我叩きに
してくれるわ!!

ぎゃおっ!!
姜子昌様…
南太国を
よろしく
お願いします…

蹄庖ーっ!!

!!

いたか？
いいや！影も形もないぞ!!

姜子昌が
見つからぬだと？
そんなはずはない！
バラバラになっているか
黒コゲかもしれん
今一度
くまなく捜せ!!
もういい
師真
おまえのいう通り
姜子昌が
乗っていたのなら
寸前で逃亡したと
いうことだ
乗っていたのは
疑問の余地は
ありません
何千万という
同胞を犠牲に
しての
大掛かりな策
私なら
見届けに
来る
それにしても
何て野郎だ！
月を落とすなんざ
正気の沙汰じゃ
ねえぜ！
軍師
あやつをこのまま
生かしておけば
何を企むやら
分かりませんぞ!!
これから先
どのような罠を
仕掛けているか…
油断なりません！

まだ
そう遠くには
行っておらぬ
間違えても
落ち延びた
羅候の許に
行かせては
ならん！
南天全土に
布令を出せ！
姜子昌を
かくまった者は
族殺に処す！
逆に生死を問わず
捕らえた者は
大名に取り立てるぞ!!
ただちに
三個軍団による
捜索隊を
編成！
考えられる
あらゆる地点を
洗え！
必要とあらば
兵力はいくら
増員しても
かまわん!!
草の根
分けても
捜し出すのだ!!

……
妻子晶よ…！
密かにおまえとの
再戦を望んでいたが…
事ここに至っては
何が何でも
おまえの命を
もらわねば
ならん…！
こうして
南天全土に
姜子晶の
大捜索網が
敷かれた
あらゆる街道・間道は
封鎖され
通行する船舶の
徹底した
臨検が行なわれた
また
どんな小部落にも
兵が派遣され
兵士達は
目の色を変え
捜索に当たった

それだけではない
多くの領民も
恩賞に目が眩み
捜索に手を
貸したのだった
捜索の網は
せばまりつつあった

来たか…
好きで来たわけじゃないわ
あんたの手の者に拉致同然で■れて来られたのよ
それはすまなかったな
相変わらず人の都合も考えずに強引に事を運ぶ男ね
あんたのそーいう所が…
そう憎まれ口を叩くな老先生に笑われるぞ

さぞかし先生も落胆なさってるでしょうね
ゴロゴロゴロ
……
ところで何か用？
今更話すことなんて無いはずよ

ゴロゴロゴロ
お笑い草よね
大望を抱いてこの学び舎を出た二人が
あたしは主君も国も無くしあんたは身一つで二人そろっての恩師の墓参り

俺の首を取れ!!
え?
ゴロゴロゴロ…
ドン

ゴロゴロゴロ
何…?
あたしを斬る気?
スッ

そして
その武器を
おまえに託したい…！
おまえのいう通り
俺の首さえ
持っていけば
必ず竜王は
おまえを引見して
くれるだろう
憎き敵将の
首を見れば
気も緩もう！
隙も出来よう！
その時を
逃さず
本懐をとげるのだ！
魔人の如き
竜王のことだ
そうそう
好機は訪れん…！
問合いを
計って
一撃で
倒すのだぞ！
ちょ…
ちょっと…
ちょっと
待って!!

姜子昌…！
おまえが
以前から
望んでいた
ことだ…
遠慮は
いらん
自分で首を
はねても
構わぬが
それでは
死んでいった部下に
申しわけが
たたぬ
俺はあの竜王に
戦いを挑むために
おまえに己の首を
渡すのだ！
竜王と…
戦うため…？
邪悪な巨人を倒すため
生ある命こそ
俺に残された
最後の武器だ!!!

ゴロゴロゴロ..
好きな男の首をはねるなんて命令…
絶対にするな——っ!!
そんなこといわれた女のことを考えろ!
どれだけ辛くて惨めなことか…
考えろ…
考え…ろ…
スマン…

待ってよ…
そんな…
いきなり…
いつもよ…
いつもあんたは自分の都合だけで…
何もかも決めてさ…
あたしの気持ちを考えたことがあって!?
ゴロゴロゴロ..
首を欲しがったのはおまえだ…!

ふふ…
初めて頭を下げたわね…

五丈の捜索隊だ…！
俺を追っている
……
飛竜よ
命令する気はない…！
だが俺とおまえの命…
二人の命を合わせれば必ず竜王を倒せる!!

お互い
全てを賭けた
主君のために…
そして…
この戦国の世に
生きた
我々二人のために…!!

わかったわ…
あなたの
最期の戦い…
あたしが
見届けるわ…!!

姜子昌！
ゴゴゴゴ…
天下取りか――…
先行っちまうぞ！
ほら何突っ立ってんだよ！
約束だぜ！
姜子昌は何だ!?大将軍か!?大元帥か!?
俺はそこでっかい城建ててよ！
そして銀河のど真ん中に皇帝になるんだぜ！
どこへ？
だ――っ！決まってんだろ!!
いつか行こうぜ！二人でよ!!
天下取りだよ天下取り!!
銀河の端から端まで戦い抜いてよ!!

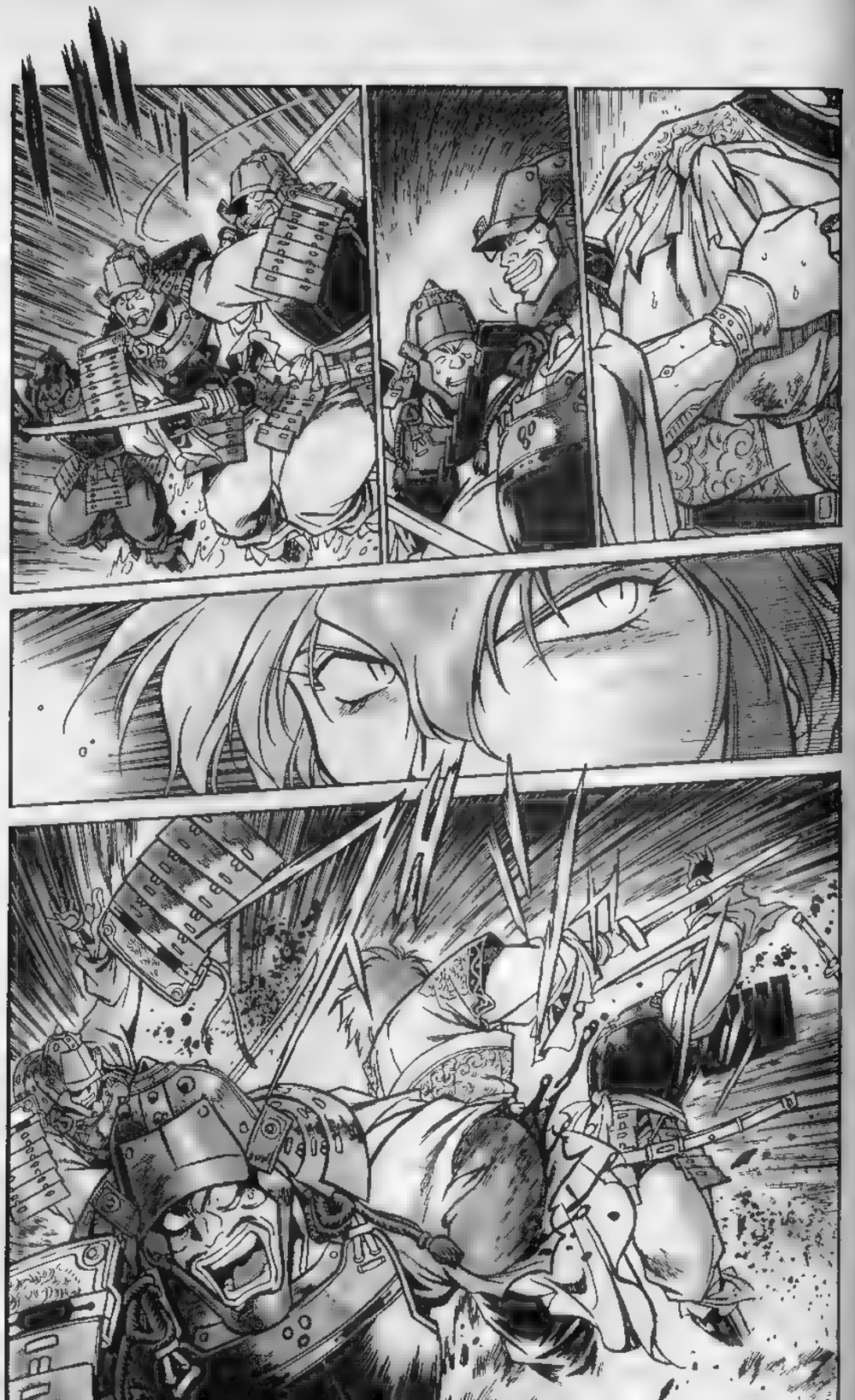
姜子昌
破れたり…!!!

太覚屋師真!!!

そうおまえの
思う通り
なるものか…!!
俺に残された
この全身全霊を
もって
竜王を倒して
みせる…!!

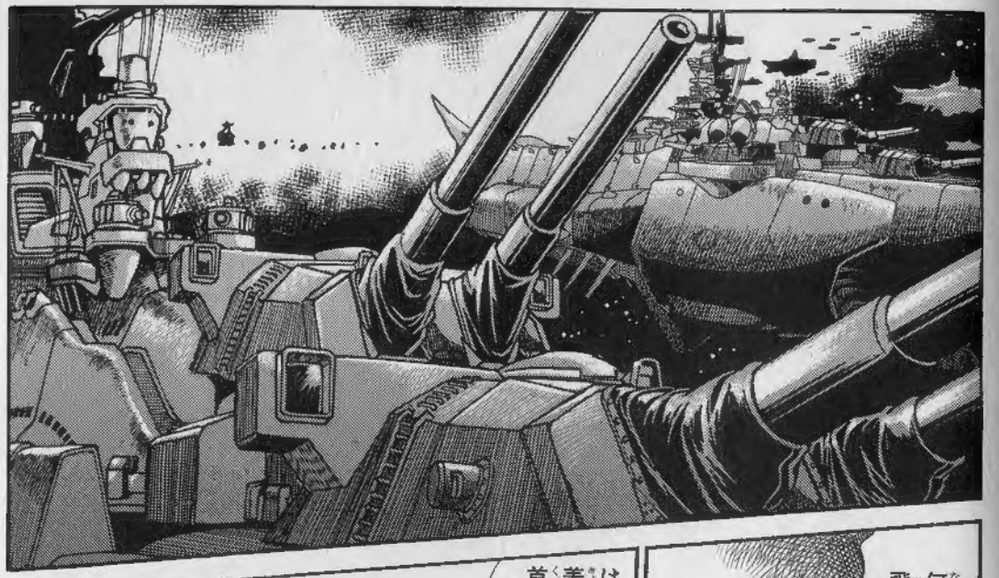
ああああ

ゴロゴロゴロゴロ
急に荒れてきましたね
そろそろ中に入られては…
死んだか…



え？
いや…
何でもない…
南天大将軍
姜子昌の
首だ…
竜王に
お取り継ぎ
願いたい…！

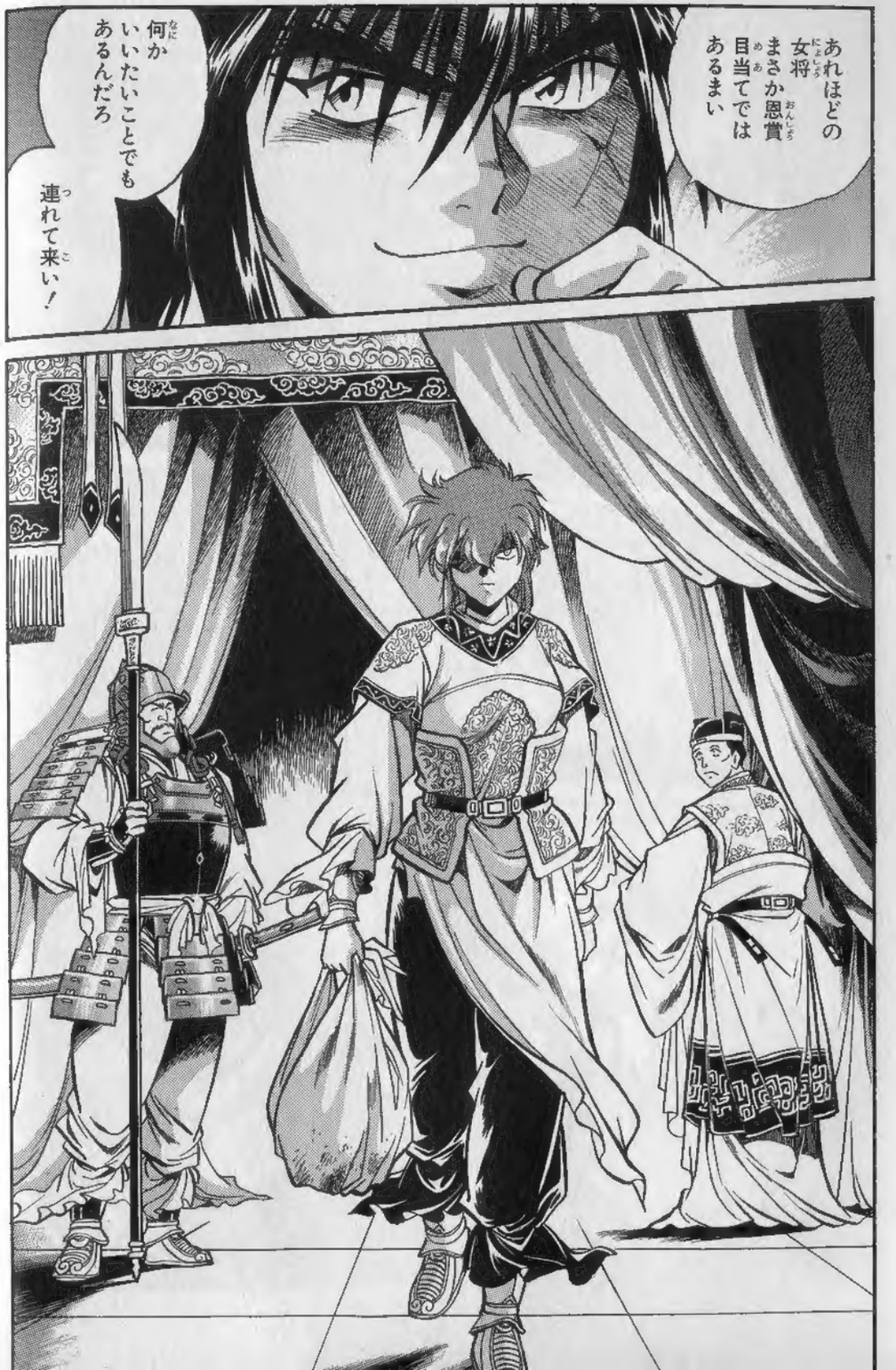
亡者め!!
この首は
誰にも
渡さないわ!!



何?
飛竜?
あの正宗の
副将
飛竜が?
はは…
姜子昌の
首を持参したと…
武器は
所持して
おりません
いかが
いたしますか?
陛下
何があったのかは
わかりませぬが
飛竜は
宿敵正宗の部下!
軽々に
御引見は
危のうございます
いや…

銀河戦国群雄伝

ライ



「銀河戦国群雄伝ライ」25巻!!
「雷 暗殺!?」

智将の乾坤一擲の策か…!
それとも万策尽きた末の
無謀な賭けか!!
己の命を最期の
武器として
二人は強大な男に挑む!
姜子昌という
男の首!
天下のために
必要と思った
所存でございます
だれの天下だ?

Dengeki Comics EX

銀河戦国群雄伝ライ㉔

2000年10月25日　初版発行

著者　真鍋譲治

発行者　佐藤辰男

発行所　株式会社メディアワークス　〒101-8305 東京都千代田区神田駿河台1-8 東京YWCA会館 電話03-5281-5214(編集)

発売元　株式会社角川書店　〒102-8177 東京都千代田区富士見2-13-3 電話03-3238-8605(営業)

装丁　朝倉哲也+design CREST

印刷・製本　共同印刷株式会社

©JOJI MANABE 2000

R本書の全部または一部を無断で複写(コピー)することは、著作権法上での例外を除き、禁じられています。本書からの複写を希望される場合は、日本複写権センター(03-3401-2382)にご連絡ください。

Printed in Japan

落丁・乱丁本はお取り替えいたします。

初出／月刊電撃コミックガオ！ 2000年3月号～7月号(メディアワークス刊)

ISBN4-8402-1690-8 C0979